

作成日 2007年9月18日
 改訂日 2017年7月19日

製品安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	組織用迅速固定液 スーパーフィックス
製品コード	KY-500
SDS整理番号	KY500_JP_1
会社名	倉敷紡績株式会社
住所	〒572-0823 大阪府寝屋川市下木田町14-5 クラボウ寝屋川テクノセンター3F
担当部門	環境メカトロニクス事業部 バイオメディカル部
電話番号	072-820-3079
FAX番号	072-820-3095
緊急時連絡電話番号	バイオメディカル部 072-820-3079
推奨用途及び使用上の制限	研究専用試薬

2. 危険有害性の要約

GHS分類		
物理化学的危険性 健康に対する有害性	引火性液体	区分2
	急性毒性(経口)	区分4
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	区分1A
	生殖毒性	区分1B
	標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(中枢神経系、視覚器、全身毒性) 区分2(神経系、呼吸器)
	標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(中枢神経系、視覚器) 区分2(呼吸器)
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分3

上記で区分の記載がない危険有害性は、現時点で「分類対象外」、「区分外」又は「分類できない」である。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の高い液体および蒸気
 飲み込むと有害
 吸入すると有害
 強い眼刺激
 吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 遺伝性疾患のおそれの疑い
 発がんのおそれ
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
 臓器の障害(中枢神経系、視覚器、全身毒性)
 臓器の障害のおそれ(神経系、呼吸器)
 眠気またはめまいのおそれ
 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害(中枢神経系、視覚器)
 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ(呼吸器)
 水生生物に有害

注意書き

【安全対策】 使用前に取扱説明書を入手すること。
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
 容器を密閉しておくこと。
 容器を接地すること/アースをとること。

防爆型の電気機器／換気装置／照明機器などを使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 取扱後は手などをよく洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 環境への放出を避けること。

【応急措置】

火災の場合:消火するために適切な消火剤を使用すること。
 飲み込んだ場合:気分が悪い時は医師に連絡すること。
 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 医師に連絡すること。
 口をすすぐこと。
 皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激または発疹が生じた場合:医師の診断／手当てを受けること。
 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
 その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合:医師の診断／手当てを受けること。
 ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師に連絡する事。
 医師の診断／手当てを受けること。
 呼吸に関する症状が出た場合:医師に連絡すること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 気分が悪い時は医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。
 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 涼しいところに置くこと。

【廃棄】

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。
 情報なし

その他の危険有害性

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 混合物

成分名	含有量 (wt.%)	CAS番号	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
メタノール	70%	67-56-1	(2)-201
ホルムアルデヒド	8.0%	50-00-0	(2)-482 2-(8)-379
緩衝液	非公開	非公開	登録済み

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

分類に寄与する不純物及び安定化添加物(濃度又は濃度範囲) :情報なし

4. 応急措置

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 ただちに医師の診断／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯をすること。

眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合、医師の診断／手当てを受けること。

飲み込んだ場合 口をすすぐこと。
 ただちに医師の診断／手当てを受けること。
 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

急性及び遅発性の最も重要な兆候及び症状	飲み込むと有害 吸入すると有害 強い眼刺激 吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 遺伝性疾患のおそれの疑い 発がんのおそれ 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 臓器の障害(中枢神経系、視覚器、全身毒性) 臓器の障害のおそれ(神経系、呼吸器) 眠気またはめまいのおそれ 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害(中枢神経系、視覚器) 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ(呼吸器) 肺水腫 ※症状は遅れて発現することがあり、十分な安静と医学的な経過観察が必要である。 救護の際に付着物が目や皮膚にばく露しないように、必要に応じて保護具を着用する。 安静と医学的な経過観察が必要である。
応急措置をする者の保護 医師に対する特別な注意事項	

5. 火災時の措置

消火剤 使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	粉末、二酸化炭素、耐アルコール泡、水噴霧、乾燥砂、散水 棒状注水 火災によって刺激性または毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が破裂する恐れがある。 きわめて燃えやすい、熱、火花、火炎で容易に発火する。 消火後再び発火する恐れがある。
特有の消火方法	加熱により蒸気が空気と爆発性混合気体を生成する恐れがある。 引火点が極めて低い。散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。 散水により火災が広がる恐れのある場合には、散水以外の適切な消火剤を使用すること。 火災発生場所の周辺への関係者以外の立ち入りを禁止する。 動可能な容器は、危険でなければ速やかに安全な場所へ移動する。 延焼の恐れのないよう水噴霧で周囲の容器、施設等を冷却すること。 消火作業は風上から行うこと。 周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いること。
消火を行う者の保護	消火に用いた材料が環境中に放出されないように注意する。 消火活動の際は、適切な保護具(耐熱手袋、保護眼鏡、保護マスク、空気式呼吸器、耐熱保護衣等)を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置	
環境に対する注意事項	漏出した場所の周辺には、ロープを張るなどして人の立ち入りを禁止し、危険区域での火気使用を禁止する。 漏出時の処理を行う際には、適切な保護具(第8項参照)を着用すること。 全ての着火源を取り除くこと。 漏出物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 屋内の場合、立ち入る前から処理が終わるまで十分に換気を行う。
封じ込め及び浄化方法・機材	河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 危険で無ければ漏出を止める。 乾燥した土や砂などの不活性な吸収材に吸収させ、廃棄用の容器に回収する。 回収物は「13. 廃棄上の注意」の項の記載に準じて処分する。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに取り除くこと。 着火した場合に備え、消火器などを準備すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、適切な保護具を着用すること。 防爆型の局所排気、全体換気を備えた換気の良い場所で作業を行う。 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 眼、皮膚への接触を避けること。
	局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	

衛生対策	取扱い後は手や顔をよく洗うこと。
	取扱い時に飲食または喫煙をしないこと。
	取扱い後はよく手を洗うこと。
	火気厳禁。
保管	安全な保管条件
	密閉容器で保管し、直射日光を避け換気の良い場所で保管すること。
技術的対策	保管場所には取扱いに必要な採光、照明などの設備、および防爆型の換気の設備を設けること。
	「10. 安定性及び反応性」を参照。
混触危険物 容器包装材料	密閉できる破損の無い包装を使用すること。
	製品の容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度、管理濃度（職業ばく露限界値、生物学的ばく露指標）

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	
		日本産業衛生学会（2016）	ACGIH（2016）
メタノール	200ppm	200ppm、260mg/m ³	TLV-TWA 200ppm STEL 250ppm
ホルムアルデヒド	0.1ppm	0.1ppm、0.2ppm（最大許容濃度） 0.12mg/m ³ 、0.24mg/m ³ （最大許容濃度）	STEL 0.3ppm（天井値）

設備対策	必要に応じて取扱い場所の近くに手洗い、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。 局所排気または全体換気を行うこと。
保護具	呼吸器の保護具
	手の保護具
	眼の保護具
	皮膚及び身体の保護具

適切な呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク、保護マスク）を着用すること。
 不浸透性保護手袋を着用すること。
 適切な保護眼鏡、ゴーグル型保護眼鏡、保護面等を着用すること
 適切な保護衣、保護エプロン、安全靴等を着用すること。
 ※保護具は定期的に点検すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	形状	液体
	色	無色透明
臭い		特徴的な臭気（刺激臭）
pH		約7
融点・凝固点		情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲		情報なし
引火点		10.4℃（タグ密閉式）
蒸発速度（酢酸ブチル＝1）		情報なし
燃焼性（固体、ガス）		情報なし
蒸気圧		情報なし
蒸気密度（空気＝1）		情報なし
比重（密度）		情報なし
溶解度（水）		水：可溶
n-オクタノール・水分係数		情報なし
自然発火温度		情報なし
分解温度		情報なし
粘度（粘性率）		情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性および化学的安定性	通常の取扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性	通常の取扱い条件下では危険有害反応を起こさない。 <small>強い刺激臭を発生する</small>
避けるべき条件	直射日光、高温へのばく露、火気厳禁。
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	加熱によって刺激性または毒性のガス（CO、CO ₂ 、ホルムアルデヒド蒸気等）を発生するおそれがある。

11. 有害性情報

混合物としての有害性情報

経口	成分データからGHS区分4と分類した。 成分データ（メタノール） ラット 経口LD50 6200 mg/kg（EHC 196（1997））、9100 mg/kg（EHC 196（1997））からは区分外と判断されるが、メタノールの毒性はげっ歯類に比べ霊長類には強く現れるとの記述があり（EHC 196（1997））、ヒトで約半数に死亡が認められる用量が1400 mg/kgであるとの記述（DFGOT vol.16（2001））があることから、区分4とした。 成分データ（ホルムアルデヒド） ラット 経口 LD50 600mg/kg、700mg/kg、800mg/kg（SIDS（2002））
----	---

急性毒性	経皮	製品の急性毒性推定値 >2000mg/kgのためGHS区分外。 成分データ(メタノール) ウサギ 経皮LD50、15800 mg/kg (DFGOT vol.16(2001))、区分外。 成分データ(ホルムアルデヒド) ウサギ 経皮 LD50 270mg/kg (EHC 89(1989))、区分3。
	吸入(蒸気)	製品 急性毒性推定値 4800~5300ppm、GHS区分4。(気体の基準値を使用。) 成分データ(メタノール) ラット 吸入LC50 >22500 ppm(4時間換算値:31500 ppm) (DFGOT vol.16(2001))から区分外とした。なお、飽和蒸気圧濃度は116713 ppmVであることから気体の基準値で分類した。 成分データ(ホルムアルデヒド) ラット 吸入LC50 480ppm (SIDS(2002))、から区分2(気体)。
	吸入(粉じんおよびミスト)	情報なし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		十分な情報がなく分類できない。 成分データ(メタノール) ウサギに20時間閉塞適用の試験で刺激性がみられなかった(DFGOT vol.16(2001))とする未発表データの報告はあるが、皮膚刺激性試験データがなく分類できない。なお、ウサギに24時間閉塞適用後、中等度の刺激性ありとする報告もあるがメタノールによる脱脂作用の影響と推測されている(DFGOT vol.16(2001))。 成分データ(ホルムアルデヒド) ウサギを用いた皮膚刺激性試験結果(EHC 89(1989))「mild to moderate」、及びヒトへの影響データ(EHC 89(1989))から区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		成分データから区分2と分類した。 成分データ(メタノール) ウサギを用いたDraize試験で、適用後24時間、48時間、72時間において結膜炎は平均スコア(2.1)が2以上であり、4時間まで結膜浮腫が見られた(スコア2.00)が72時間で著しく改善(スコア0.50)した(EHC 196(1997))。しかし、7日以内に回復しているかどうか不明なため、細区分せず区分2とした。 成分データ(ホルムアルデヒド) 疫学事例(EHC 89(1989))、及び動物を用いた眼刺激性試験結果(SIDS(2002)、EHC 89(1989))から、「軽度ではない眼刺激を有する」と考えられ、区分2Aとした。
感受性	呼吸器感受性	成分データから区分1と分類した。 成分データ(ホルムアルデヒド) モルモットを用いたIgE特異的免疫学的項目の測定陽性結果(CICAD 40(2002))、ヒトへの健康影響のデータ(EHC 89(1989))、及び日本産業衛生学会分類にて、リストアップされていることから区分1とした。
	皮膚感受性	成分データから区分1と分類した。 成分データ(メタノール) モルモットを用いた皮膚感受性試験(Magnusson-Kligman maximization test)で感受性は認められなかったとの報告(EHC 196(1997))に基づき、区分外とした。なお、ヒトのパッチテストで陽性反応の報告が若干あるが、他のアルコールとの交差反応、あるいはアルコール飲用後の紅斑など皮膚反応の可能性もあり、メタノールが感受性を有するとは結論できないとしている(DFGOT vol.16(2001))。 成分データ(ホルムアルデヒド) 疫学事例(EHC 89(1989))、CERI-NITE有害性評価書 No.71(2005)、日本産業衛生学会分類、及び日本接触皮膚炎学会にて、リストアップされていることから区分1とした。
生殖細胞変異原性		成分データから区分2と分類した。 成分データ(メタノール) マウス赤血球を用いたin vivo小核試験(体細胞in vivo変異原性試験)において、吸入暴露で陰性(EHC 196(1997))、腹腔内投与で陰性(DFGOT vol.16(2001)、PATTY(5th, 2001))、であることから区分外とした。 成分データ(ホルムアルデヒド) CERI-NITE有害性評価書 No.71(2005)、SIDS(2004)の記述から、生殖細胞in vivo変異原性試験(マウス精母細胞における染色体異常試験)で陰性、体細胞in vivo変異原性試験(小核試験、染色体異常試験)で陽性(ただし直接暴露部位の胃腸管細胞、肺胞細胞に限る)、生殖細胞in vivo遺伝毒性試験なしであることから、区分2とした。
発がん性		成分データから区分1Aと分類した。 成分データ(メタノール) 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)による未発表報告ではラット・マウス・サルでの試験で発がん性なしとしている(EHC 196(1997))。また、ラットを用いた8週齢より自然死するまで飲水投与した試験で、雌雄に頭部と頸部のがん及び雌に血液リンパ網内系腫瘍の発生が有意かつ用量依存的に増加したと報告されている(ACGIH(2009))。しかし腫瘍の判定が標準的方法と異なり、動物の自然死後に行われていないため、評価あるいは比較が困難と考えられる。以上の相反する情報により分類できない。 成分データ(ホルムアルデヒド) IARC(2005)でGroup 1(carcinogenic to humans)に分類されていることから、区分1Aとした。
生殖毒性		成分データから区分1Bと分類した。 成分データ(メタノール) 妊娠マウスの器官形成期に吸入暴露した試験において、胎児吸収、脳脱出などがみられ(PATTY(5th, 2001))、さらに別の吸入または経口暴露による試験でも口蓋裂を含め、同様の結果が得られている[EHC 196(1997)、DFGOT vol.16(2001)]。メタノールの生殖への影響に関して、証拠の重みに基づく健康障害としての科学的判断がなされ、ヒトのデータは欠如しているが動物による影響は明確な証拠があることから、暴露量が十分であればメタノールがヒトの発生に悪影響を及ぼす可能性がある結論されている[NTP-CERHR Monograph(2003)]。以上によりヒトに対して生殖毒性があると考えられる物質とみなされるので区分1Bとした。
標的臓器毒性(単回ばく露)		成分データから区分1(中枢神経系、視覚器、全身毒性)、区分2(神経系、呼吸器)、区分3(麻酔作用)と分類した。 成分データ(メタノール) ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、血中でのギ酸の蓄積により代謝性アシドーシスに至る。そして視覚障害、失明、頭痛、めまい、嘔気、嘔吐、クスマル呼吸、クスマル昏睡などの症状があり、時に死に至ると記述されている(DFGOT vol.16(2001)、EHC 196(1997))。また、中枢神経系の障害、とくに振せん麻痺様錐体外路系症状の記載(DFGOT vol.16(2001))もあり、さらに形態学的変化として脳白質の壊死も報告されている(DFGOT vol.16(2001))。これらのヒトの情報に基づき区分1(中枢神経系)とした。標的臓器としてさらに、眼に対する障害が特徴的であるので視覚器を、また、代謝性アシドーシスを裏付ける症状として頭痛、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの記載もあるので全身毒性をそれぞれ採用した。一方、マウスおよびラットの吸入ばく露による所見に「麻酔」が記載され(EHC 196(1997)、PATTY(5th, 2001))、ヒトの急性中毒に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生じていると記述されている(PATTY(5th, 2001))ので、区分3(麻酔作用)とした。 成分データ(ホルムアルデヒド) ヒトについては、「気道への刺激性」(ACGIH(7th, 2001))、「気道への刺激性、鼻や口蓋神経の感受性低下、視床下部への影響」(CERI-NITE有害性評価書 No.71(2005))、実験動物については、「気道への刺激性、筋肉など全身の痙攣、肺水腫」(SIDS(2004))等の記述があることから、神経系、呼吸器が標的臓器と考えられた。以上より、分類は区分1(神経系、呼吸器)とした。

標的臓器毒性(反復曝露)	成分データから区分1(中枢神経系、視覚器)、区分2(呼吸器)と分類した。 成分データ(メタノール) ヒトの低濃度メタノールの長期暴露の顕著な症状は広範な眼に対する障害だったとする記述(EHC 196 (1997))や職業上のメタノール暴露による慢性毒性影響として、失明がみられたとの記述(ACGIH (7th, 2001))から区分1(視覚器)とした。また、メタノール蒸気に繰り返し暴露することによる慢性毒性症例に頭痛、めまい、不眠症、胃障害が現れたとの記述(ACGIH (7th, 2001))から、区分1(中枢神経系)とした。なお、ラットを用いた経口投与試験で肝臓重量変化や肝細胞肥大(PATY (5th, 2001)、IRIS (2005))などの報告があるが適応性変化と思われ採用しなかった。 成分データ(ホルムアルデヒド) ヒトについては、「刺激性に起因する呼吸器への影響、中枢神経系への影響」(ECETOC TRI (1979))、実験動物については、「鼻の組織への扁平上皮化生、咽頭への扁平上皮化生、気管腔の炎症、体重減少、気管支上皮の化生、呼吸困難、不穏、背彎姿勢、死亡」(CERHザードデータ集 96-7 (1997))等の記述があることから、呼吸器、中枢神経系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(呼吸器、中枢神経系)とした。
吸引性呼吸器有害性	情報なし

12. 環境影響情報

混合物としての環境影響情報

水生環境有害性(急性)	区分2と分類される成分を含み、加算法により区分3と分類した。 成分データ(メタノール) GHS区分外 成分データ(ホルムアルデヒド) GHS区分2
水生環境有害性(長期間)	成分データ(メタノール) 急性毒性区分外であり、難水溶性ではないことから区分外。 成分データ(ホルムアルデヒド) 急速分解性があり、かつ生物蓄積性が低いと推定されることから、区分外。
生態毒性	成分データ(メタノール) 魚類(ブルーギル) 96時間LC50 = 15400 mg/L (EHC 196, 1998) 甲殻類(ブラウンシュリンプ) 96時間LC50 = 1340 mg/L (EHC 196, 1998) 成分データ(ホルムアルデヒド) 魚類(ストライプトバス) 96時間LC50=1.8mg/L (CICAD40, 2002)
残留性/分解性	成分データ(メタノール) 良分解性(化学物質安全性点検結果(1993)) 成分データ(ホルムアルデヒド) 良分解性(化学物質安全性点検結果(1989))
生体蓄積性	成分データ(メタノール) 難水溶性ではなく(水溶解度=1000000 mg/L (PHYSPROP Database, 2009))蓄積性が低いと推定される。 成分データ(ホルムアルデヒド) log Kow=0.35 (PHYSPROP Database, 2005) で生物蓄積性が低いと推定される。
土壤中の移動度	情報なし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の付属書に列記されている成分を含まない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の際は、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合は、該当する業者に委託して処理を行うこと。
汚染容器及び包装	容器は関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること

14. 輸送上の注意

国際規則	
陸上輸送	ADR/RIDの規定に従う。
海上輸送	IMOの規定に従う。
航空輸送	ICAO /IATAの規定に従う。
国連分類	1993
国連番号	Class 3
品名(国連輸送名)	その他の引火性液体(他の危険性を有しないもの)(メタノール、ホルムアルデヒド含有)
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	不適用
国内規制	
陸上規制情報	消防法に従う。 消防法 危険物第4類引火性液体 アルコール類(水溶性)
海上規制情報	船舶安全法に従う。
航空規制情報	航空法に従う。
輸送時の特定の安全対策および条件	輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないことを確かめる。 落下、転倒、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。 直射日光及び高温下での輸送は避ける。 その他関係法規の基準に従い輸送を行う。
緊急時応急措置指針番号	128

15. 適用法令

化審法	:優先評価化学物質 メタノール(通し番号90) ホルムアルデヒド(通し番号25)
労働安全衛生法	:名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 メタノール(政令別表第9の560) ホルムアルデヒド(政令別表第9の548) 危険物 引火性のもの 第二種有機溶剤 メタノール
毒物および劇物取締法	:政令・劇物 ホルムアルデヒドを含有する製剤。ただし、ホルムアルデヒド1%以下を含有する物を除く。 (政令第二条第一項第97号)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	:特定第一種指定化学物質 ホルムアルデヒド(政令番号1-411)
消防法	:消防法 危険物第4類引火性液体 アルコール類(水溶性)
船舶安全法	:引火性液体(施行規則第194条、告示別表第1)
航空法	:引火性液体類(危規則第2、3条 危険物告示別表1)

16. その他の情報

参考文献、URL

- 1) Globally Harmonized System of classification and labeling of chemicals, (4th., 2011), UN
- 2) JIS Z 7252:2014およびJIS Z 7253:2012
- 3) NITE GHS分類データ
- 4) NITE CHRIP (http://www.safe.nite.go.jp/japan/sougou/view/SystemTop_jp.faces)
- 5) ECHA Home Page (<http://echa.europa.eu/information-on-chemicals>)

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において取り扱って下さい。

また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。